

地域景況天気図

時期 業種	30年 4～6 月期実績	30年 7～9 月期見通し	概況
総合			管内の景況はうす曇り。D・I値はマイナス4.3ポイントと前期比8.5ポイント改善しました。建設業関連や農業関連の景況に左右されやすい地域性から、建設業の改善に伴い全体的な景況感に改善が見られます。 雇用面では、人出不足の問題が建設業にとどまらず他の業種にも広がりを見せているものの、当面の重点施策は「人材確保」より「経費節減」が依然上回っていますが、若干意識の変化が見られます。
製造業			製造業はうす日。D・I値は4.6ポイントと前期比13.7ポイントの改善で、安定した業況となっています。原材料価格の上昇が続いているものの販売価格への転嫁はスローですが、販売量が増加して売上額が増加。収益も回復しています。
卸売業			卸売業はうす日。D・I値は14.3ポイントと前期比14.3ポイント改善しています。今期の卸売業は、建築材料卸売で仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁されたこともあり、比較的好調な業況へと好転しています。
小売業			小売業は曇り。D・I値はマイナス25.4ポイントと前期比0.4ポイント悪化して、比較的低調な業況が継続しているものやや下げ止まり感があります。仕入価格・販売価格ともに上昇し、一定の利益率が確保されたため収益は前期比改善されています。
サービス業			サービス業はうす曇り。D・I値は±0.0ポイントと前期比16.7ポイント改善して、比較的稳定した業況となっています。今期のサービス業は、自動車整備業が改善しましたが、娯楽業や旅館・その他の宿泊所は不振な業況が継続しています。
建設業			建設業はうす日。D・I値は14.0ポイントと前期比11.6ポイントの改善となり、安定した業況とはなりましたが、着業期としては改善の幅がやや物足りなく感じられます。しかし、民間の設備工事が増加しており、人出不足から設備工事では条件の良い工事から受注している状況です。
不動産業			不動産業はうす曇り。D・I値は±0.0ポイントと前期比16.7ポイント悪化しましたが、比較的稳定した業況です。不動産代理・仲介業は比較的好調な業況を継続していますが、貸事務所・土地賃貸業は売上額・収益とも減少に転じました。
運輸業			運輸業はうす曇り。D・I値はマイナス17.7ポイントと前期に比べ荷動きの増加等により11.7ポイント改善しています。しかし、燃料費の高騰により収益を圧迫しており、比較的低調な業況が継続しています。
農業			農業はうす日。前年同期比生産高D・I値は9.1ポイント、収益D・I値は13.7ポイントとなり、春のアスパラ等順調に生産出荷され安定した業況です。しかし、6月中旬の低温と下旬にかけての長雨により畑作への影響が懸念されます。

(この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調

総合

1. 概況

管内の景気は、全体的な景況感に改善が見られる。

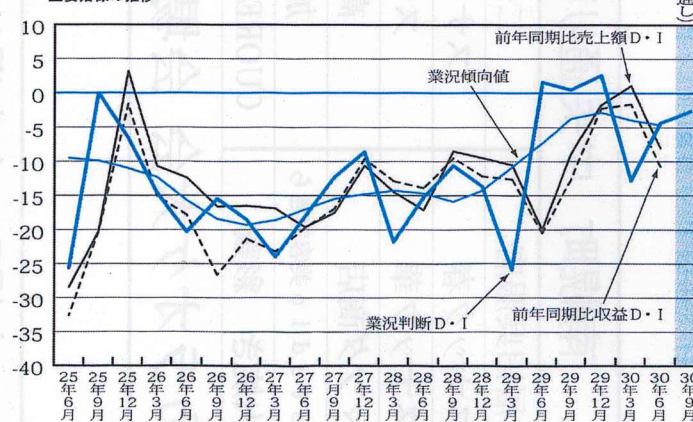
管内企業の業況判断指数(D・I=業況が「良い」とする企業の割合から、「悪い」とする企業の割合を引いた値)は、マイナス4.3ポイントと前期(1月～3月)と比較して8.5ポイント改善しました。

管内の景況感は、小売業と不動産業を除いて前期比改善しています。順調な公共工事や民間の設備工事等の増加による建設業や建築材料卸売業、行楽シーズンを迎えて食品製造業が改善しています。また、管内は、建設業関連や農業関連の景況に左右されやすい地域性からも、建設業の改善に伴い全体的な景況感に改善が見られます。

経営上の問題点としては、依然「人手不足」がトップに挙げられており、建設業で顕著でしたが、他の業種にも問題点として広がっています。ただし、当面の重点経営施策としては、「人材確保」がトップなのは比較的好調な建設業のみでした。製造業・卸売業・サービス業は拡大志向で「販路を広げる」がトップで、他の業種は「経費を節減する」となっており、全体でも「人材確保」より「経費を節減する」が依然上回っています。しかし、前年同月比では「経費を節減する」が9.9ポイント減少、「販路を広げる」が2.1ポイント増加しており若干ですが意識が変化してきています。

ハローワーク岩見沢における5月の有効求人倍率は1.07倍と前年同月比0.03ポイント悪化しています。全道平均と同数値ですが、全道平均は前年同期比0.06ポイント改善しており、管内の雇用環

主要指標の推移



(注) 業況傾向値は、5期分の移動平均値